

保育現場における 親を喪失した子どもへの 支援の実態と課題

～保育士の語りのテキストマイニング分析～

加藤恵美 いたうたけひこ 井上孝代

(静岡県立大学短期大学部 和光大学 明治学院大学)

日本応用心理学会第85回大会 ポスター発表A-19

2018年8月25日(土)14:45-16:45

大阪大学 吹田キャンパス

加藤恵美: emi@kato.jp

【問題】①あいまいな喪失

- 病気や事故で親を失い、自死や離婚など“あいまいな喪失” (Boss 1999) を体験し、トラウマを抱える子どもも少なくない。
- 愛着の対象であり、生活基盤を支える親を失うことは、子どもの発達上の危機といえる。
- しかし、保育士養成課程および保育所保育指針において、親との離別という“喪失体験”をした子どもの理解とケアは扱われていない。



【問題】②子どものあいまいな喪失体験

- 子どもにとって親との離別は、愛着の対象を失う悲嘆の体験であり、発達上の危機といえる。
- 平木(2012)は、親との離別のうち、離婚も子どもにとっては、＜あいまいな喪失＞体験であると指摘する。
- 今日、子どもの悲嘆やトラウマへの支援が急務だが、保育現場では殆どその対策が講じられていない。



【目的】子どもの喪失体験と保育対応の実態と課題を解明

- 病気や事故で親を失い、また自殺や離婚により“あいまいな喪失” (Boss 1999) を体験し、トラウマを抱える子どもが少なくない。
- 親との離別による悲嘆やトラウマを抱える子どもの支援が必要だが、保育の現場では殆ど議論がなされておらず、保育所保育指針及び保育士養成課程において子どもの喪失体験への支援方策は扱われていない。
- そこで、保育士による親との離別体験をした子どものトラウマ体験へのレジリエンスを高める支援法開発のため、
- 保育現場における子どもの喪失体験について、保育士への聞き取りによりその実態を明らかにするとともに、
- 喪失体験をした子どもへの保育の現状と課題を明らかにすることを目的とした。

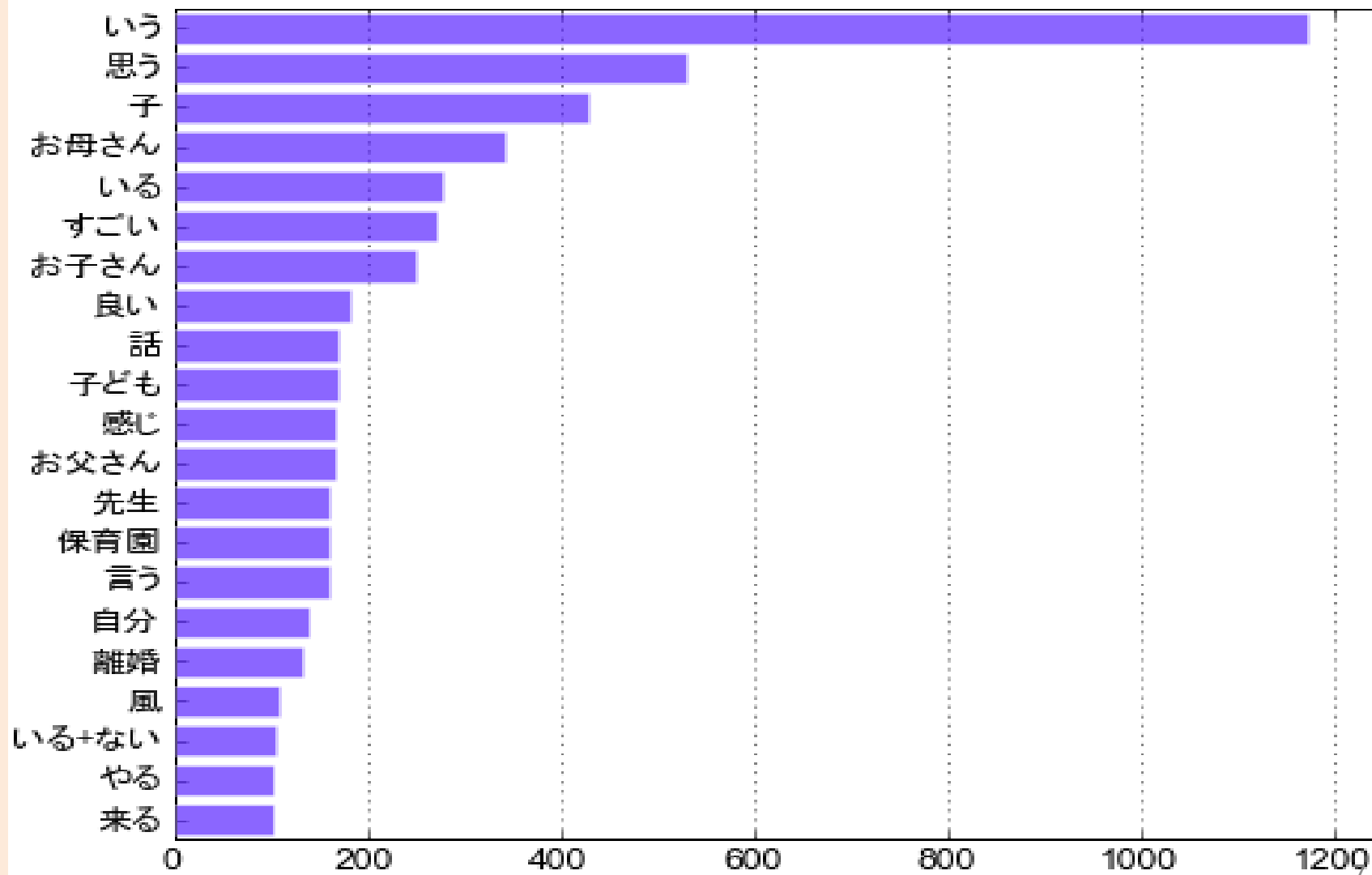
【方法】園長・主任の面接調査

- 保育問題を研究する有志の会の所属園を中心に6保育園の園長と主任を対象として、半構造化面接を行った。
- 対象者は園長が6名、主任が5名で計11名であった。
- 面接時間は1名につき1時間程であった。
- 事前に研究の趣旨説明と協力依頼を口頭で行い、承諾を得られた対象者へ研究趣旨及び依頼文書、研究計画書、面接調査のガイドライン、研究協力承諾書を郵送した。
- 面接調査を行う際に文書と口頭で研究趣旨説明と協力依頼を行い、承諾を得られた対象者に面接調査を実施した。
- 面接の内容はICレコーダーに録音し、内容を文字に起こし、タブ区切りデータを作成し、Text Mining Studio Ver6.1によりテキストマイニング分析を行った。

【結果】親が離婚した子ども

- 保育士の回答で100回以上の単語出現頻度(図1)のうち、名詞で最も多いのは428回出現の「子」
- 親と離別した要因の多くは<離婚>
- 「離別した親と会った後は些細な事で泣いた」、
- 「離婚後抱っこをせがむようになった」、
- 「離婚後も特に変化が無かった」、
- 「むしろ表情が明るくなった」
- 子どものために、**保育園では充実した楽しい生活ができるよう努めることが重要**と語る保育士が多かった。
- 次いで343回出現の名詞「お母さん」は、離婚家庭の母親の姿と、保育士の母親へのかかわりについて語られ、母親の生活や精神状態が子どもに与える影響が大きい**ため、母親への支援が重要**だと回答する保育士が複数いた。

図1 単語出現頻度(上位20語)



【結果】形容詞「良い」の抽出

- 形容詞に注目し、159回出現の形容詞「良い」を原文参照
- 保育士が離別体験をした子どもや親へのかかわりを「～すれば良かった」と振り返る語りが多かった。
- 「(子どもの)本音ともっと接してあげればよかったな」、
- 「結局自分が何をしたらいいのかわからなくて」、
- 「少なくとも(子どもの)気持ちは、私は知ってるよ、っていうようなことがあってもよかった、あるべきだったんじゃないかな」、
- 「どこをどうしてあげたらいいのかなって」、「(児相にも)見てもらったりしたほうがいいのかな」、
- 「関係機関とか、あの家のその状況っていうかね、そういうのに踏み込んだ方が良かったのかな」
- 形容詞「良い」に注目し、前提単語「踏み込む」を原文参照
- 「これからいろんなお子さんと接したときに、なんか自分自身ももうちょっと踏み込んでみよう」、
- 「(朝、母親がいなくなった時に)もしそこで、もうちょっと自分が踏み込んでいけたら結果は変わっていたかもしれない」など、
- より具体的なかかわり方についての思いが語られていた。

【結果】形容動詞「かわいそう」「ひどい」

- 12回出現の形容動詞「かわいそう」は、離婚による両親の不在で生活が不安定になった子どもや、単親との関係が良くない子どもの状態について語られていた。
- 4回出現の形容詞「ひどい」は、親と離別後の子どもが、虫歯や指吸い、甘えがひどくなったという生活態度の変化が語られていた。

【考察】①子どもの感情や行動の変化

- 子どもの親との離別要因は＜離婚＞が多い。
- 今回の面接では死別ケースは無かった。
- 子どもの変化として、離別の喪失感とともに、生活が大きく変化することによる甘えや怒りなどの感情や行動に変化が見られた。
- その一方で、特に変化が無い子どもがいた。
- 以前より表情が明るくなったと感じる子どももいる。離婚により親同士のいさかいを目にしなくなったためか。
- 喪失体験とそのグリーフは生活環境や親子関係も反映する個別性の高いものであることが示された。

【考察】②保育士からの支援・援助

- 多くの保育士が指摘したのは、離婚後の単親や家族への生活面と精神的な支えが、子どもに強く影響するという点。
- つまり、子どもの喪失体験の支援には、**保護者への支援の視点を含めることが不可欠**である。
- 子どもに加え保護者へのかかわりについての振り返り(省察)をする保育士も多かった。
- 親を喪失した**子どもの気持ちに寄り添うこと**、そして、**保護者や家庭の状況を把握し、保育士がその状況により踏み込むことが必要だと考えていた**。
- 保育士として何をしたらよいかわからないなど**<戸惑い>**を感じている場合もあった。

【考察】③保育士への支援・教育

- 保育士が子どもの喪失体験とグリーフに対処する際の今後の課題として、
- 保護者支援および子どものトラウマケアとその予防に関する「気づき」、「知識」、「スキル」を身につける必要がある。
- そのための保育士への教育的体制の整備が焦眉の急として求められる。

[改訂] 保育所保育指針 平成30年度(2018年度)

- 3 環境及び衛生管理並びに安全管理
- (2) 事故防止及び安全対策
- ウ **保育中の事故**の発生に備え、施設内外の危険箇所の点検や訓練を実施するとともに、**外部からの不審者等の侵入防止**のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を行うこと。また、**子どもの精神保健面**における対応に留意すること。

保育所保育指針解説書(平成30年3月)

- 子どもたちが緊急事態を目前に体験した場合には、強い恐怖感、不安感により、情緒的に不安定になる場合もある(心的外傷後ストレス障害:PTSD)。
- このような場合には、**小児精神科医や臨床心理士等による援助を受けて、子どもと保護者の心身の健康面に配慮することも必要となる。**

【文献】

- Boss, P. (2006) *Loss, trauma, and resilience: Therapeutic work with ambiguous loss*. Norton.(中島聡美・石井千賀子監訳 2015 あいまいな喪失とトラウマからの回復: 家族とコミュニティのレジリエンス 誠信書房)
- 平木典子, 2012, 離婚・関係の解消による喪失, 精神療法, 38(4), 47-51
- 加藤恵美・井上孝代・いとうたけひこ (2018) 離婚後の子どもの“荒れ”への保育: <あいまいな喪失>の一事例 9/16-17 日本カウンセリング学会第51回大会 松本大学
- JSPS科研費17K04297の助成を受けた。
- 加藤恵美: emi@kato.jp

